

ようじえんだより 2016年度11月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

11月主題『いっしょに』

主題聖句：「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」

ローマの信徒への手紙 12章 15節

☆ 0～2歳児：さんびかを歌ったり、祈ることを喜ぶ。思いや主張、甘えを受け止めてもらいながら、安心して生活する。好きな遊び、ごっこ遊びを通して、友だちと遊ぶ楽しさを味わう。木の実や落ち葉など晩秋の自然にふれ、興味を持って遊んだり味わったりする。

☆ 3～5歳児：豊かな秋の実りを喜び、神様に感謝する。秋の自然物に触れ、調べたり、試したり、食べたりして季節を感じる。気持ちや考えを伝え合い、分かち合いながら友だちと過ごす。いろいろな人の働きに心をとめる。

絵本が身近な子、遠い子

前任地の幼稚園で保護者アンケートを行ったのですが、家庭での絵本の読み聞かせの実態は各家庭で大きく違っていました。4択で選んでもらったのですが、①ほぼ毎晩絵本の読み聞かせをする、②週に2、3回絵本の読み聞かせをする、③月に2、3回絵本の読み聞かせをする、④ほとんど絵本の読み聞かせをしない、の4つがきれいに25%ずつ分かれています。前任地でも絵本を大切にしてきましたので、この結果は少なからずショックでした。

親の打算は通じない、けれども…

OECD(経済協力開発機構)の世界の子どもの学力調査で、北欧各国は全般的に高得点を出しています。特にフィンランドは数年にわたり世界1位でした。日本の文科省の方々がフィンランドを視察した際、フィンランドの授業時数は日本のゆとり世代よりも更に少なかったのだそうです。それでも学力が高い理由を探ったところ、

①暗記型の授業ではなく、正解がないことを共に議論させ、深く思考させるような授業プログラムだったこと、②フィンランドの各家庭では幼い頃から絵本の読み聞かせをしていて、各家庭の絵本冊数が平均300冊あった、という報告がなされています。それを知った私たち夫婦は、学力の基本は国語力！を合言葉に、自宅に作り付けの本棚を作り、娘が小さいころから絵本を毎晩読み聞かせ、現在では1000冊の絵本があります。しかし現在の娘の成績を見ると…肝心の国語が一番苦手なのです。〇|□|__
親の打算は裏切られるものです。

絵本の読み聞かせは愛情を注ぐこと

しかし娘が小学5年生の現在も読み聞かせを続けています。それは絵本を読むことは、食事や睡眠と同じくらい大切に、それは愛情を注ぐことだと信じているからです。読み聞かせは疲れます。毎晩である必要はありません。でも心の栄養という愛情を注ぐことは大切なことです。 久保田愛策

年間主題『平和とともに』

主題聖句：キリストはわたしたちの平和であります
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章 14節